

宮古市「復興に向けた計画づくりに関するアンケート調査」結果 【赤前地域版】

1. 調査概要及び回収状況

(1) 調査概要

調査方法：郵送による配布、回収
 調査期間：【発送】平成23年7月8日 【回答の返送締切】平成23年7月26日
 対象者：被災地域及びその周辺の各世帯
 配布数：【市全体】6,644世帯 【赤前地域】456世帯

(2) 回収状況(平成23年8月16日時点)

回収数：【市全体】3,200世帯 【赤前地域】199世帯
 回収率：【市全体】48.2% 【赤前地域】43.6%

2. 集計結果(赤前地域分)

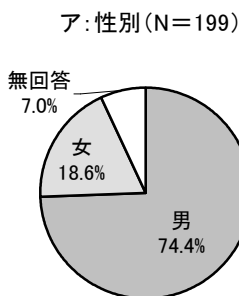
(1) 回答者の属性

問1：世帯の代表の方についてお聞きします。
 それぞれ当てはまる番号を1つ選び○を付けてください。

- 世帯の代表の方にお答えいただいたことにより、「男性」、「60歳代」の回答者が多くなっています。また、一世代世帯、二世帯世帯をあわせると60%以上を占めています。

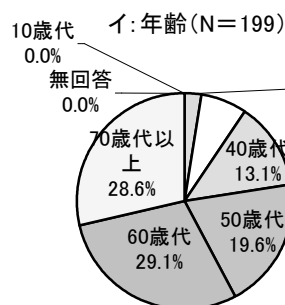
ア:性別

	全体		赤前	
	回答数	割合	回答数	割合
男	2,172	67.9%	148	74.4%
女	814	25.4%	37	18.6%
無回答	214	6.7%	14	7.0%
計	3,200	100.0%	199	100.0%



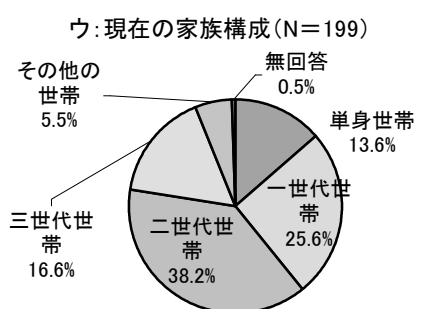
イ:年齢

	全体		赤前	
	回答数	割合	回答数	割合
10歳代	1	0.0%	0	0.0%
20歳代	51	1.6%	5	2.5%
30歳代	218	6.8%	14	7.0%
40歳代	393	12.3%	26	13.1%
50歳代	572	17.9%	39	19.6%
60歳代	875	27.3%	58	29.1%
70歳代以上	1,050	32.8%	57	28.6%
無回答	40	1.3%	0	0.0%
計	3,200	100.0%	199	100.0%



ウ:現在の家族構成

	全体		赤前	
	回答数	割合	回答数	割合
単身世帯	592	18.5%	27	13.6%
一世代世帯	786	24.6%	51	25.6%
二世帯世帯	1,142	35.7%	76	38.2%
三世帯世帯	425	13.3%	33	16.6%
その他の世帯	194	6.1%	11	5.5%
無回答	61	1.9%	1	0.5%
計	3,200	100.0%	199	100.0%



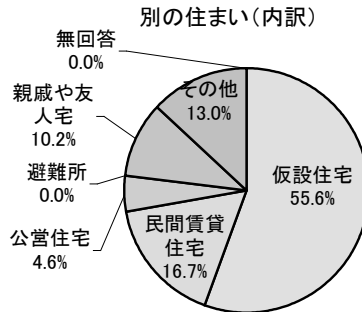
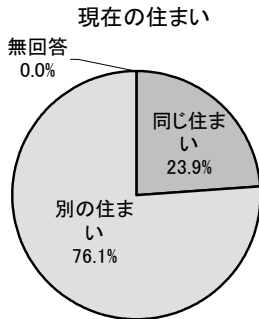
- 現在のお住まいが震災前とは別の方においては、「仮設住宅」が最も多く、次いで「民間賃貸住宅」となっています。

エ：現在の住まい

	全体		赤前	
	回答数	割合	回答数	割合
同じ住まい	993	36.8%	34	23.9%
別の住まい	1,672	61.9%	108	76.1%
無回答	35	1.3%	0	0.0%
計	2,700	100.0%	142	100.0%

	全体		赤前	
	回答数	割合	回答数	割合
仮設住宅	793	47.4%	60	55.6%
民間賃貸住宅	368	22.0%	18	16.7%
公営住宅	78	4.7%	5	4.6%
避難所	33	2.0%	0	0.0%
親戚や友人宅	177	10.6%	11	10.2%
その他	214	12.8%	14	13.0%
無回答	9	0.5%	0	0.0%
計	1,672	100.0%	108	100.0%

※[エ]で「別の住まい」と回答した1,692人(赤前108人)を対象



- 震災前に仕事に就いていた方の職業は約24%が「製造業・建設業」で、職場については約27%が「赤前」となっています。
- 震災前に仕事に就いていた方のうち、震災後に何らかの変化(休業、廃業、退職、失業)があったと回答した方は、約35%となっています。

オ：震災前の仕事

	全体		赤前	
	回答数	割合	回答数	割合
農林業	28	0.9%	9	4.5%
漁業	371	11.6%	29	14.6%
製造業・建設業	447	14.0%	47	23.6%
販売・サービス業	618	19.3%	21	10.6%
公務員・団体職員	280	8.8%	10	5.0%
主婦(夫)	137	4.3%	9	4.5%
学生	1	0.0%	0	0.0%
無職	985	30.8%	51	25.6%
その他	263	8.2%	20	10.1%
無回答	70	2.2%	3	1.5%
計	3,200	100.0%	199	100.0%

カ：震災前の職場の場所

	全体		赤前	
	回答数	割合	回答数	割合
宮古	418	20.1%	20	14.4%
愛宕・光岸地	51	2.5%	3	2.2%
鎌ヶ崎	144	6.9%	3	2.2%
藤原・磯鶏	177	8.5%	8	5.8%
高浜	34	1.6%	0	0.0%
金浜	26	1.3%	1	0.7%
崎山	37	1.8%	2	1.4%
津軽石	78	3.8%	7	5.0%
赤前	66	3.2%	37	26.6%
重茂	59	2.8%	1	0.7%
田老	233	11.2%	0	0.0%
その他宮古市	141	6.8%	15	10.8%
県内	85	4.1%	9	6.5%
県外	43	2.1%	5	3.6%
無回答	486	23.4%	28	20.1%
計	2,078	100.0%	139	100.0%

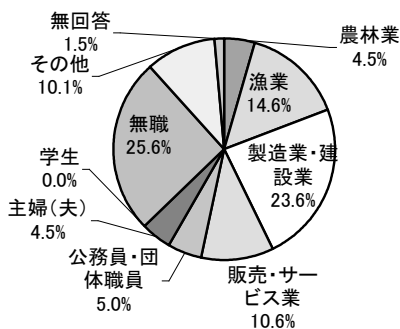
※[オ]の主婦(夫)、無職を除いた2,078人(赤前139人)を対象

キ：震災後の仕事の変化

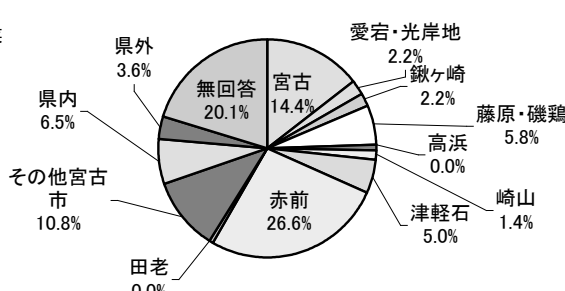
	全体		赤前	
	回答数	割合	回答数	割合
休業	396	19.1%	20	14.4%
廃業	138	6.6%	9	6.5%
退職	99	4.8%	5	3.6%
失業	182	8.8%	14	10.1%
変化なし	895	43.1%	60	43.2%
その他	182	8.8%	18	12.9%
無回答	186	9.0%	13	9.4%
計	2,078	100.0%	139	100.0%

※[オ]の主婦(夫)、無職を除いた2,078人(赤前139人)を対象

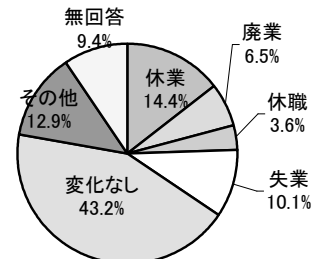
震災前の仕事



震災前の職場の場所



震災後の仕事の変化



(2) 震災前の住まい、今後の住まいについて

問2：震災前のお住まいについてお聞きします。

それぞれ当てはまる番号を1つ選び○を付けてください。

問3：今後の住まいをどのようにお考えですか。

- 震災前の住まいのほとんどが「持ち家」となっています。
- 住まいの被害については、「流出」、「全壊」、「大規模半壊」の被害を受けている方が、回答者の約60%を占めています。
- 今後の住みたい場所については、「近くの高台」や「市内で津波被害を受けない場所」に住みたいと考えている方がそれぞれ30%以上となっています。（4ページ）
- 今後の住まいとしては、38%が「新築」となっています。（4ページ）
- 住みたい場所の理由は、「津波被害を受けたくない」と「離れたくない」が多くなっています。（4ページ）
- 住みたい場所と考えている住まいをクロス集計すると、「近くの高台など」で「新築」が最も多く、約18%となっています。（4ページ）

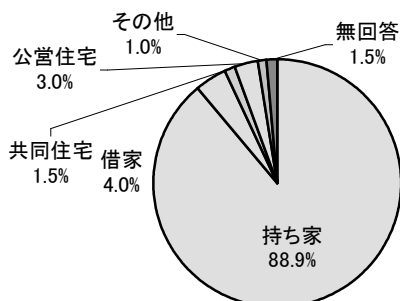
ウ：震災前の住まいの種類

	全体		赤前	
	回答数	割合	回答数	割合
持ち家	2,639	82.5%	177	88.9%
借家	225	7.0%	8	4.0%
共同住宅	218	6.8%	3	1.5%
公営住宅	26	0.8%	6	3.0%
その他	41	1.3%	2	1.0%
無回答	51	1.6%	3	1.5%
計	3,200	100.0%	199	100.0%

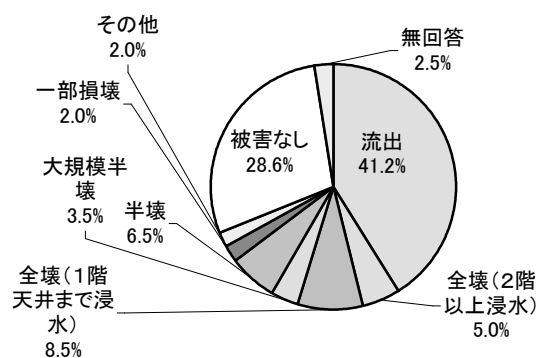
エ：住まいの被害

	全体		赤前	
	回答数	割合	回答数	割合
流出	853	26.7%	82	41.2%
全壊(2階以上浸水)	307	9.6%	10	5.0%
全壊(1階天井まで浸水)	524	16.4%	17	8.5%
大規模半壊	408	12.8%	7	3.5%
半壊	305	9.5%	13	6.5%
一部損壊	147	4.6%	4	2.0%
その他	83	2.6%	4	2.0%
被害なし	500	15.6%	57	28.6%
無回答	73	2.3%	5	2.5%
計	3,200	100.0%	199	100.0%

震災前の住まいの種類



住まいの被害



ア-1:住みたい場所

	全体		赤前	
	回答数	割合	回答数	割合
同じ場所	990	36.7%	30	21.1%
近くの高台など	753	27.9%	46	32.4%
市内	639	23.7%	45	31.7%
市外	99	3.7%	6	4.2%
その他	72	2.7%	6	4.2%
無回答	147	5.4%	9	6.3%
計	2,700	100.0%	142	100.0%

※[問2エ]の「被害なし」を除いた
2,700人(赤前142人)を対象

ア-2:考えている住まい

	全体		赤前	
	回答数	割合	回答数	割合
既に補修	488	18.1%	15	10.6%
補修予定	269	10.0%	7	4.9%
新築	811	30.0%	54	38.0%
民間賃貸	89	3.3%	3	2.1%
公営住宅	176	6.5%	9	6.3%
未定	486	18.0%	36	25.4%
その他	82	3.0%	3	2.1%
無回答	299	11.1%	15	10.6%
計	2,700	100.0%	142	100.0%

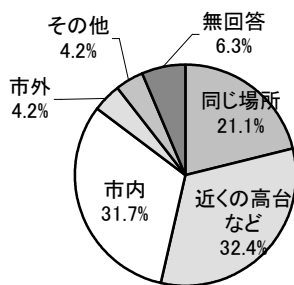
※[問2エ]の「被害なし」を除いた
2,700人(赤前142人)を対象

イ:理由(複数回答)

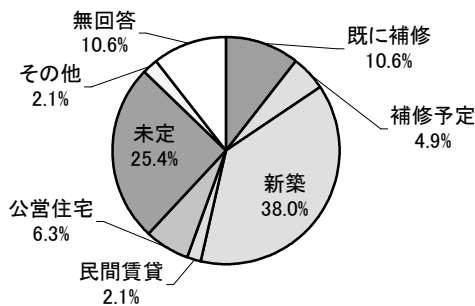
	全体		赤前	
	回答数	割合	回答数	割合
離れたくない	1,441	53.4%	64	45.1%
仕事場が近い	442	16.4%	27	19.0%
生活に便利	871	32.3%	26	18.3%
津波被害を受けたくない	1,037	38.4%	68	47.9%
近所づきあい	640	23.7%	33	23.2%
子どもの教育環境	229	8.5%	12	8.5%
早く住宅確保	812	30.1%	45	31.7%
費用がかかる	797	29.5%	50	35.2%
その他	121	4.5%	5	3.5%
無回答	143	5.3%	9	6.3%
計	6,533		339	

※[問2エ]の「被害なし」を除いた
2,700人(赤前142人)を対象

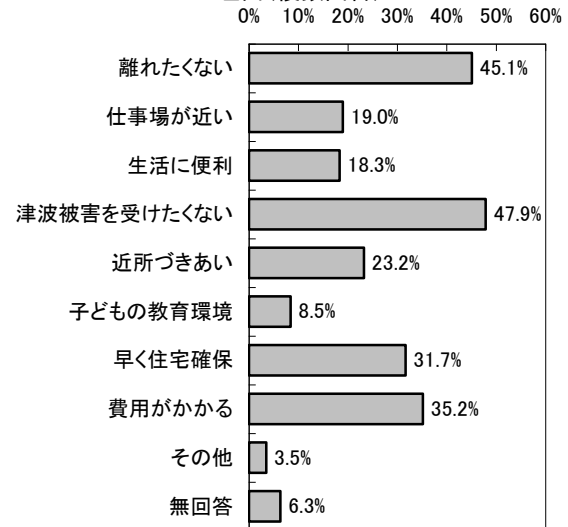
住みたい場所



考えている住まい



理由(複数回答)



住みたい場所×考えている住まいのクロス

9. 赤前	考えている住まい								
住みたい場所	既に補修	補修予定	新築	民間賃貸	公営住宅	未定	その他	無回答	計
同じ場所	10	4	4			8		4	30
	7.0%	2.8%	2.8%	0.0%	0.0%	5.6%	0.0%	2.8%	21.1%
近くの高台など	3	2	25		3	10	1	2	46
	2.1%	1.4%	17.6%	0.0%	2.1%	7.0%	0.7%	1.4%	32.4%
市内	2		19	2	6	12	2	2	45
	1.4%	0.0%	13.4%	1.4%	4.2%	8.5%	1.4%	1.4%	31.7%
市外		1	3			2			6
	0.0%	0.7%	2.1%	0.0%	0.0%	1.4%	0.0%	0.0%	4.2%
その他			3			3			6
	0.0%	0.0%	2.1%	0.0%	0.0%	2.1%	0.0%	0.0%	4.2%
無回答				1		1		7	9
	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%	0.7%	0.0%	4.9%	6.3%
計	15	7	54	3	9	36	3	15	142
	10.6%	4.9%	38.0%	2.1%	6.3%	25.4%	2.1%	10.6%	100.0%

(3) 今後の不安、備えについて

問4：これからの暮らしにおいて、不安なことについてお聞かせください。

問5：あなた自身で、今回の震災をきっかけに今後どのような備えをしたいと思いますか。

- 今後の不安としては、「余震や二次災害」と「住宅の確保」がそれぞれ40%以上となっています。
- 今後の備えとしては、「家族での話し合い」、「非常時持出袋」が多くなっています。

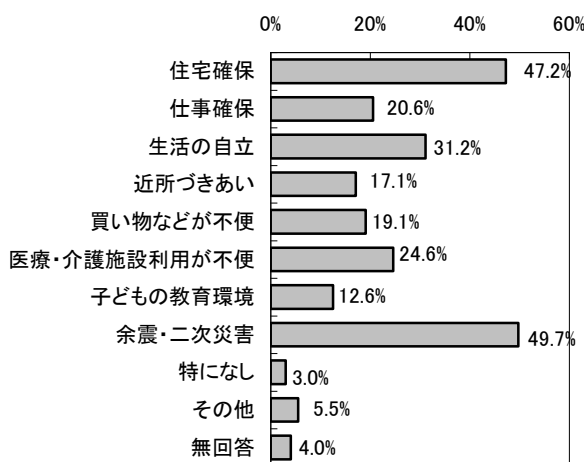
問4:これからの不安(複数回答)

	全体		赤前	
	回答数	割合	回答数	割合
住宅確保	1,208	37.8%	94	47.2%
仕事確保	551	17.2%	41	20.6%
生活の自立	947	29.6%	62	31.2%
近所づきあい	526	16.4%	34	17.1%
買い物などが不便	806	25.2%	38	19.1%
医療・介護施設利用が不便	817	25.5%	49	24.6%
子どもの教育環境	310	9.7%	25	12.6%
余震・二次災害	1,705	53.3%	99	49.7%
特になし	154	4.8%	6	3.0%
その他	104	3.3%	11	5.5%
無回答	173	5.4%	8	4.0%
計	7,301		467	

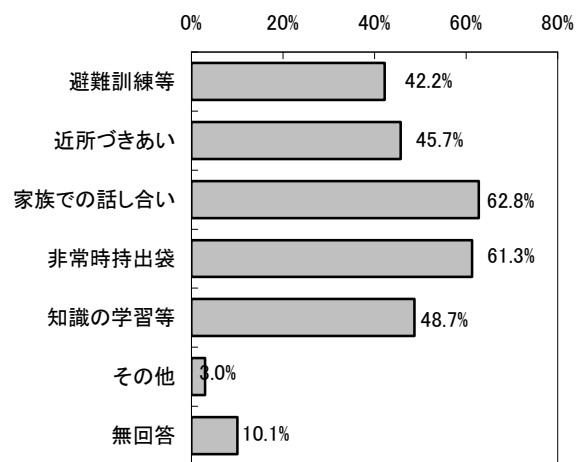
問5:今後の備え(複数回答)

	全体		赤前	
	回答数	割合	回答数	割合
避難訓練等	1,298	40.6%	84	42.2%
近所づきあい	1,406	43.9%	91	45.7%
家族での話し合い	2,043	63.8%	125	62.8%
非常時持出袋	1,970	61.6%	122	61.3%
知識の学習等	1,502	46.9%	97	48.7%
その他	128	4.0%	6	3.0%
無回答	333	10.4%	20	10.1%
計	8,680		545	

これからの不安(複数回答)



今後の備え(複数回答)



(4) 復興に向けた今後の施策について

問6：現在、宮古市では復興に向けた計画づくりに向け、次の3つの分野で施策の検討を進めています。「すまいと暮らしの再建」「産業・経済復興」「安全な地域づくり」それぞれの分野について、大切であると思うことは何ですか。特に、当てはまるもの3つまでの番号を記入してください。また、施策に対するお考えや提案などがありましたらお書きください。

- 「すまいと暮らしの再建」に関しては、回答者の半数以上が「住宅再建への支援」を選択し、「経済的な支援など生活再建に向けた取り組み」と「雇用の場の確保」が次いで多くなっています。

- 「産業・経済復興」に関しては、「(施設の復旧、生産者支援、魚市場整備等の) 漁業振興に向けた取り組み」が最も多く、次いで「工場の復旧等の製造業振興に向けた取り組み」となっています。
- 「安全な地域づくり」に関しては、「(道路や公共交通の再整備など災害に強い) 交通網の形成に向けた取り組み」がもっとも多く、次いで「防潮堤や湾口防波堤等のハード整備」、「道路、河川や漁港など公共土木施設の復旧」が多くなっています。

ア: すまいと暮らしの再建(複数回答)

	全体		赤前	
	回答数	割合	回答数	割合
経済的な支援等	1,706	53.3%	98	49.2%
住宅再建支援	1,717	53.7%	109	54.8%
健康の維持	443	13.8%	24	12.1%
医療体制の確保	1,067	33.3%	45	22.6%
児童・生徒の心のケア	239	7.5%	8	4.0%
学校教育環境の整備	370	11.6%	28	14.1%
生涯学習等の環境整備	137	4.3%	9	4.5%
雇用の場の確保	1,139	35.6%	67	33.7%
地域コミュニティ	421	13.2%	21	10.6%
無回答	433	13.5%	35	17.6%
計	7,672		444	

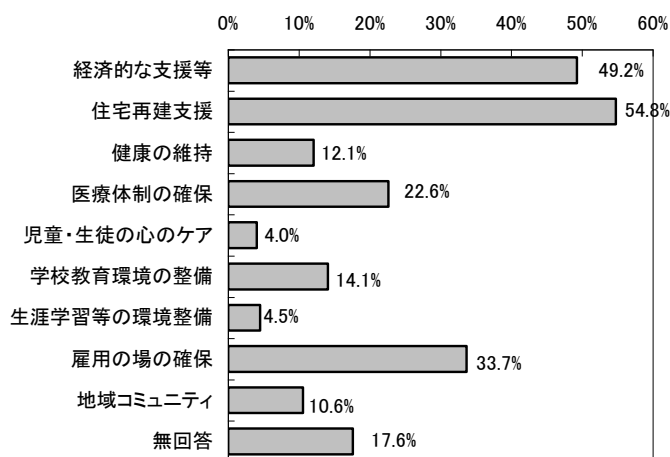
イ: 産業・経済復興(複数回答)

	全体		赤前	
	回答数	割合	回答数	割合
農林業振興	967	30.2%	57	28.6%
漁業振興	1,522	47.6%	89	44.7%
製造業振興	815	25.5%	69	34.7%
商業・サービス業振興	881	27.5%	34	17.1%
観光振興	467	14.6%	20	10.1%
港湾振興	489	15.3%	24	12.1%
産業創出	689	21.5%	59	29.6%
事業創出	438	13.7%	28	14.1%
無回答	746	23.3%	50	25.1%
計	7,014		430	

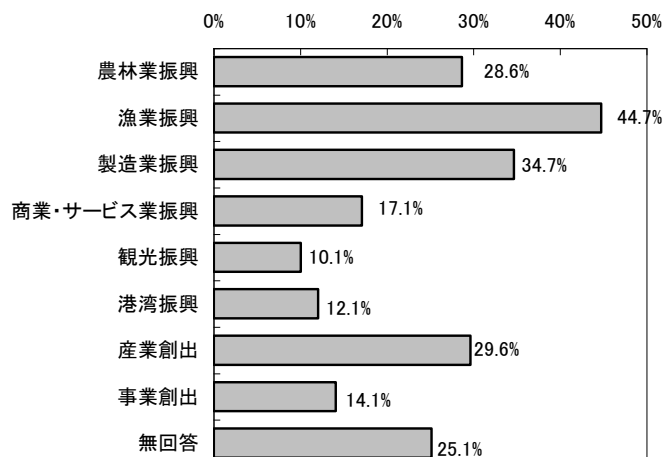
ウ: 安全な地域づくり(複数回答)

	全体		赤前	
	回答数	割合	回答数	割合
防波堤等	1,838	57.4%	99	49.7%
交通網整備	1,717	53.7%	125	62.8%
土木施設復旧	1,361	42.5%	83	41.7%
地域防災力	444	13.9%	22	11.1%
情報伝達・避難計画	872	27.3%	35	17.6%
災害記憶継承	277	8.7%	17	8.5%
自然エネルギー	545	17.0%	39	19.6%
無回答	515	16.1%	38	19.1%
計	7,569		458	

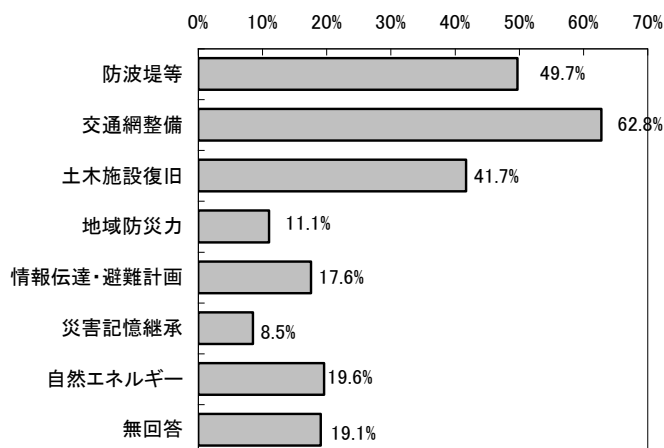
すまいと暮らしの再建(複数回答)



産業・経済復興(複数回答)



安全な地域づくり(複数回答)



■ 主な自由意見（原文要約）

- ・ 住まいとくらしの再建に関して、「高台での住宅地の確保」などについての意見があります。
- ・ 産業・経済復興に関して、「水産業の復興」「観光の復興」などについての意見があります。
- ・ 安全な地域づくりに関して、「防潮堤や道路の整備」「避難場所の確保」などについての意見があります。
- ・ その他として、「地域住民の主体的な活動」などについての意見があります。

住まいとくらしの再建について	
1	流された場所に家は建てたくない。
2	土地を探し、家を建てたいと考えているが、土地を見つけてもそこまで行く道路の確保がむずかしいなど、個人で見つけることは大変と感じている。
3	現在、仮設住宅に住んでいるが、この先2年後3年後の住まいが不安。
4	仮設入居と賃借アパート等の差別をなくしてほしい。たとえば、救援物資は仮設住宅には支給になるがアパート入居には支給にならないという問題がある。
5	住宅地は津波の来ない高台に移してほしい。流失した家の跡地は国で買い上げてほしい。
6	住宅用土地の開拓と2重ローンの対策が必要。
7	家屋が残った人たちにも生活支援金が必要。
8	まだまだ働きたいが高齢になるのが残念。
9	公共工事を増やして雇用を増やしてほしい。
10	大きな会社に、雇用の呼びかけをもっとしてほしい。その企業が雇用できなくても、その会社と取引のある会社が動く場合もあるため。
11	漁業者以外の市民・失業者にも仕事が必要。
産業・経済復興について	
1	家も船も作業場、乾燥場など全てが無くなり先の予定が立たないので、支援が必要。
2	水産業復旧が雇用や観光につながる。
3	漁業早く復興に向けた計画早く出してほしい。
4	漁業にも企業参入させても良いのではないかと。
5	耕作する意志のある人の農地を集約したり、農地を借り上げて耕作する組織を立ち上げてはどうか。
6	工場の誘致をしてほしい。
7	商業を営んでいる人にも支援してほしい。
8	復興に向け、歴史ある観光地として発展を目指してほしい。
9	若手企業家を宮古市の参考としてお迎えして、いろいろなアイデアを出してもらおう。
安全な地域づくりについて	
1	3.11と同様の津波が来ても死者の出ない街づくりを基本に計画を立ててほしい。
2	震災にあった海の近くには住宅は建てないで高台に移れるように土地を作ってほしい。
3	防潮堤など多額に金を掛けても自然の力には勝てない。
4	罹災して家がなくなっても、自宅などへ通う道には夜の照明がほしい。
5	県北バスを部落側に通して、車のない人達を助けてほしい。
6	白浜赤前間の道路の舗装、小学校から荷竹へ抜ける裏山道路、白浜から藤畑までの避難道路の整備などが必要。
7	海岸道路に、何ヶ所かに避難場所を作してほしい。
8	市の中核である役所は移転すべきである。
その他	
1	この土地で生活していくという事は今回のような災害があるということを忘れない事、伝えていくこと、必ず復興して、元気になったところを見てもらうことが大切。
2	地域住民が主体となって活動し、行政はこれを支援・アドバイスを行う。
3	せっかくの救援物資が、本当に必要な人に届かないという状況もあった。
4	市、県、国の方向性が決まらなければ何も前に進まない。宮古市は他の市、県、国の先頭に立つぐらいの心意気で進めてほしい。

MEMO

A large rectangular area with rounded corners, containing numerous horizontal dashed lines for writing.